

コペルニクスの転回の体験～凸凹を楽しむ人生～¹

広野ゆい

1. コペルニクスの転回と精神の反抗力

コペルニクスといえば、地動説を唱えた偉人として歴史に名を残しています。最近話題になっているアニメ「チ。－地球の運動について－」は、ヨーロッパの人々が天動説から地動説を受け入れるまでの物語を題材にしたアニメです。地動説を唱えた者は拷問され火あぶりにされたという歴史があり、人々の意識を変えるというのはこんなに難しいことなのかと、原作の漫画を読んで衝撃を受けました。

ロゴセラピーにおける「コペルニクスの転回」は個人のことろの中で起こるものですからここまで過酷なものではないかもしれません。しかしそもそも人間は自分の人生には意味があるのかと生きる意味を「問う」存在なのではなく、あなたはどうか生きるのかと人生から「問われている」存在のだと気づくということ。それはつまり人生観におけるパラダイムシフトの出発点となるもので、不治の病や障害のような大きな制約を抱えて生きる人にとっては世界が地動説を受け入れるぐらいハードルが高いことだろうと思うのです。そこで私自身のこの「コペルニクスの転回」の体験と、それが起きた過程を振り返り、ロゴセラピストとしての働きかけに生かせないかと考え続けています。

これまでの論集でも述べましたが、私自身、20代後半で自分の障害を知るまでは何をやっても失敗ばかり、怒られたり迷惑をかけたり。こんな人生には何の意味があるんだろう、